■「国家の品格」

を読んでみました.
小学校の道徳公開授業（授業参観の一環的なやつ）というイベントの間の,
保護者向けの講演の中で引用された，のが，きっかけ.
引用されたのは，会津藩の「什の掟」と「ならぬものはならぬ」という部分だったのだけど,
講演者の話では，なんだか，もやもやしたので，本を手にとってみた.

本の帯の「日本論」とかっていうあおりや，日本すごい，的な話はおいておいて,
論理よりも情緒が大事という著者の持論を,
『「論理」だけでは世界が破綻する』として,
そもそも論理が世界をカバーしていないという話をゲーデルの不完全性定理から説明されたり,

> **論理が正しくても，出発点が正しくないと答えは誤る.**
> **論理の運びが上手な人ほど，自分の正当化の道具として使える**

とか,

> **数学では公理系から出発するから論理を安心して使える.**
> **でも現実の世の中には，公理系はないので，そうじゃない**

と説明されるあたりは面白いなあ，と.

また，天才の生まれる 3 つの条件は,
「美の存在」「跪く心」「精神性を尊ぶ風土」
という主張にも,
天才というか，この人賢い人だなあ，と頭に思い浮かぶ人は,
美意識が高かったり，謙虚だったりするなあ，と，なるほどなあ，とか.

まあ，なんというか，面白いエッセイではあった.

ちなみに，ナショナリズムやパトリオティズムをひとまとめに「愛国心」とするのではなく,
パトリオティズムを「祖国愛」と訳すのは，よいなあ，と.